

11/10

# 11.11 全学統一スト 12.5 教授会同立

全市大の学友諸君、特ニ工学部の学友諸君！  
我々応用化学二回生は、応用化学二回生と共に、来る11月5日、工学部  
教授会との大衆同立を勝ち取った。

我々が何故に今同立をもつかについて若干説明しておこう。

20日に教養の授業が進行mando以来、工教授会は、以前からの工院協の  
眞理により現在の学長協議會への一定程度の批判をし、外面をつくろうと  
つも、この教養授業再開については全くあいまいな態度をとり続けてきた。  
10/21の教授会では、「他の学部がほとんど承認しているのだから」という  
形で、うるさな詰論もなく承認したのである。この時まで授業再開を、杵  
動隊に入とは切っても切れない複雑路線の延長にある事は目に見えてい  
るのに。後日、我々が工学部の教養部運営委員に教養授業再開について質  
問したこと、「教養の事は余りよく知らん」し、ラモモ理學部にあ頼む  
ていたので余り「出したところがつたんだですが、」と云はれは極力努力しま  
す」というふうに言い、我々が今の教養のカリキュラムについて現状を語  
すと、一つ一つメモして帰るありさだった。教養部運営委員によると  
「他の教授会一体どれだけの認識を持つて」といに決定したかは明づかだう  
う。工教授会は教養については全くあたた任せの教授会なので、我々は、  
まざ教養授業再開について何故にはつきりした態度をとれないかを問いかけ  
てくれたつもりである。そこで、現在杵動隊幹部は10日間チェックで、しかと学  
校長の判断で正直にやれど「半ネオ化し、キモしく市大は「杵動隊大學」  
「大學立毛大學」にやれやうとしている。また、7日の公爵裏面状に対  
する回答にも田中大臣より、「連立同立」について協議會の理論抜きに一  
般的に受けたつもりである。そして、工教授会は「の事態」うりて「我  
々がいくら努力しても、系統の人とか、分相入れぬ所があつて」とか  
「君達がもつと努力しなければ」と、今にと居直つをざるに感覚である。  
この「君達が……」の言葉の裏には、「今、工学部でつるやうのは工務部だ  
けで、専門は一部でワイヤー言って、いまだけで他は眠れるトヨをしかなか  
んだ」という考え方がでこんでるのだろう。

諸君、今こそ立ち止まれば必ず立つのだ、今立ち止まなければ、「  
カイカワ」の「力の学も実をとらないのは明らかだう。」のままあるが、  
「けば、工学部は再び「不もの地」と化すだう。我々は、この同立に  
ゆくので、専門の学友を結集し、新たな運動の原点とやれん事を呼びかけ  
る。

なる、本日次のように、この同立の準備会を開きますので、我々は今に  
上の同立に結集しようと努力する、自分の諸君は集ってください。

11/10 P.m. 3 工学部運動部、文化共同研究室